

芝浦工業大学大宮キャンパス(さいたま市見沼区)の学生たちが、老朽化が進む大宮駅東口前の商店街ににぎわいを呼び込もうと、電飾を使った活性化に取り組んでいる。活動3年目となった今シーズンも新しいオブジェを発案するなど、「自分たちの手でできることを続けたい」と張り切っている。

商店街 電飾で 光る

大宮駅東口前

芝浦工大生ら活動3年目

大宮駅東口前は、商業ビルの立ち並ぶ西口前と比べ、古いアーケードや店舗が目立ち、「暗い」との声もある。

そこで、同大システム工

学部 学部の衣袋洋一教授の研究で建築設計などを専攻する学生ら約60人が「大宮駅東口前商店街活性化まちづくりプロジェクト」(榎本

の3商店街(銀座通り、一番街、住吉通り)でイルミネーションを計画した。昨年6月からデザイン設計を始め、ひも状のイルミネーションを電柱からツリ



商店街で光るループ状やツリー状のイルミネーション

店名ロゴ入りイルミネーションも



ーのように何本もつるしたり、筒の中でループ状にさせたりと様々な形を考案。店の看板やJ・大宮アルディージャのロゴなどをプリントした筒状のフィルムを光らせるオブジェも新たに作った。

東口前から大栄橋にかけての延長約1.5キロに設置。昨年12月に点灯式を行い、あちこちで幻想的な光を浮かべている。

資金は、3商店街でつくる「宮一商店街サミット」や大学から提供を受けた。イルミネーションは2006年冬から毎シーズン行っているが、設置作業中に喫茶

店が学生らに「コーヒー」を振る舞うなど、学生と商店街との交流も生まれている。

宮一サミット事務局長の栗原俊明さん(34)は「学生のアイデアは斬新なものが多く」と期待を寄せる。プロジェクト副代表の坪井猛さん(23)(修士1年)は「冬に深夜までの設置作業は大変だったが、多くの人に楽しんでもらえれば」と話している。点灯は2月末まで。

この記事・写真等は、読売新聞社および掲載されている本人の許諾を得て転載しています。
無断での複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を侵害する一切の行為を禁じます。